



TITLE:

# 原子炉実験所図書室紹介

AUTHOR(S):

---

CITATION:

原子炉実験所図書室紹介. 静脩 1967, 4(1): 5-6

ISSUE DATE:

1967-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36400>

RIGHT:

## 資料紹介

### ○ マイクロ・フィルム版「毎日新聞」

このほど、図書館に毎日新聞のマイクロ・フィルム版が購入備え付けられた。同紙が明治5年2月21日、東京日々新聞として創刊して以来、昭和18年大阪毎日新聞との統合を経て、昭和41年末にいたる32,000余日の全紙面をマイクロ・フィルム（ポジ）化したもので、リール数にして734巻の多きに達する。本館は、これにより、明治・大正・昭和3代にかけての、政治・経済・文化・風俗等、社会全般に関する貴重な資料をコレクションの中に加えたことになる。

なお、これの利用と保管の具体的方法については目下検討中で、決定次第お知らせする筈である。

### ○ インド政府から図書寄贈さる

3月28日、総長室においてバドル・ウド・ディン・タイアブジインド大使夫妻及び秘書官等出席のもとに、奥田総長に図書67冊が贈呈された。インド政府からはこれまでも百数十冊の図書が寄贈されているが、今回贈られた図書の中にはネール著、「インドの発見」、それにタゴール、ガンジー等の著書も含まれ一般書から学術、研究書にわたっている。

### ○ 教 官 文 庫

本館には、昭和16年以来、全学の教官から、その著作物（編書、訳書、監修書を含む）の寄贈をうけて「教官文庫」が設置されている。本文庫のうち新着書を開架室に排架して広く利用に供してきたが、現在では本文庫の全冊数も600冊以上に達しており、今後とも、教官各位の御協力を得て、この文庫が一層充実され、もって本学教官の業績を網羅した一大金字塔たらしめることが期待されている。

今後、教官文庫の新着書を順次掲載する予定であるが、ここには、今年4月以来寄贈をうけた著書を御紹介しよう。

- 「工業分析化学概説3」 舟阪 渡著（工学部教授）広川書店 昭42刊 602p.
- 「天人の譜」 長広敏雄著（人文科学研究所教授）淡交社 昭42刊 188p.
- 「海事経済史研究」 堀江保蔵編（名誉教授）海文堂出版 昭42刊 261p.
- 「生活環境の衛生学」 庄司 光著（工学部教授）柴田書店 昭42刊 274p.
- Honjyo, Eijiro(名誉教授): The Social and economic history of Japan. N. Y., Russell and Russell Inc. 1965, 410P.
- Honjyo, Eijiro : Economic theory and history of Japan in the Tokugawa period. N. Y., Russell and Russell Inc. 1965, 350P.



原子炉実験所図書室

原子炉実験所は昭和38年4月1日、大阪府泉南郡熊取町に国立大学附置共同利用研

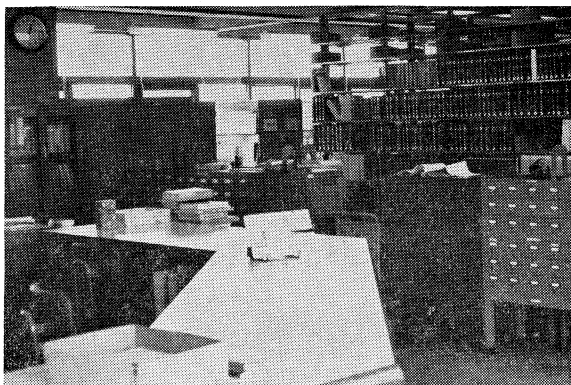
究施設の一つとして設置された。昭和31年11月原子力委員会において、大学における基礎研究および教育のための原子炉を関西方面に設置することが決定されたが、その設置場所の選定について幾多の迂余曲折があつて数年を費したのである。本研究所図書室は研究棟の3階にあり、南には葛城連峰、北には大阪湾を望み、遠く六甲の夜景

も楽しめて読書や実験、研究の疲れを癒してくれる。しかし、図書室としてはこのように実験所の最高階に位置を占めることはあまり喜ぶべきことではない。エレベータやリフトのないこの建物で、たとえば製本などのときのことを想像していただきたい。

蔵書数は約7,000冊、そのうち3割5分程度は個々の教官研究費によって購入されたもので図書室

には置かれていない。図書室にある約4,500冊のうち、大略250種の製本された雑誌が書架全体の6割近くを占めている。他にこの実験所の性格を端的に示すものとして、AEC(アメリカ原子力委員会)レポートのマイクロ・フィッシュがある。現在のところ1959年1月～1965年4月までの分、約80,000枚を所蔵している。しかしこれらの資料も所外の人に対しては閲覧以外の利用に応じられないのが残念である。

41年度の数字を見ると、増加冊数1,974冊。内訳は教官研究費によるもの937冊。図書室1,037冊(そのうち製本雑誌が525冊)、貸出冊数は1日平均1.25冊である。これらの数字と、図書館の基本的なあり方を考えあわせてみれば、この図書室の問題点がどこにあるかも明白である。先日所内で行なった「図書室利用調査について」のアンケートの集計もそのことを裏付けてい



るように思われる。

図書室の職員は現在3人(3月末までは4人)で全員司書の有資格者だが、用度掛に属し、官職も定員とか欠員不補充とかに縛られて行一、行二、定員外とバラエティに富んでいる(?)。

改善を要する点は多々あるが、二・三をあげると、重複図書をなるべく少なくして予算を有効に使うこと。目録作成の附属図書館依存をやめて、実験所の利用者の使用し易い目録を作ること。書誌分類目録を作ること。職員の官職の一元化と図書掛の新設等である。

最後をお願いしたいことは、創立後、日も浅く資料に乏しい上に僻地にあるため、研究に何かと不便が多く、よく京都の各部局へ資料の閲覧、複写依頼等でお世話になっており、今後ともよろしくお願いしたいということである。

## あ と が き

はや桜の花もちって、新緑の風かおる季節をむかえてしまいましたが、おくれればながら、この春あたらしく京都大学の門をくぐられた1回生みなさんに「おめでとう」を申しあげます。どうか講義のあいまには、気軽に附属図書館や、教養部図書室などの本学の図書を有効に御利用下さい。

この「静脩」は、全学の図書館・図書室と利用者との対話、コミュニケーションをはかることを目的として発刊されているものですから、図書館や、読書に関する御意見があれば、最寄りの図書室職員に御投稿下さい。

なお、4月から本紙の編集は下記の18名が担当することになりました。

広庭 基介(本館)	吉井 良之(本館)	上田 展世(本館)	木村 祥子(本館)
小山 隆義(本館)	中村 久蔵(教育)	古原 雅夫(医)	若城 千代(薬)
門田 泰典(数研)	小国 健一(文)	藤本 俊(法)	沢居 紀充(経)
加藤 道子(理)	井本 夙江(工)	武内 隆恭(農)	乾 美穂子(教養)
植田 博美(人文)			

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 4, No. 1(通巻16号)1967年5月15日発行・編集発行人：  
岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表77-8111(内線)2220-2238